

TOPICS
3

トピックス…③

国際乳製品市場価格の下落で
EUの生乳取引価格は続落

世界的な生乳供給量の増加や中国における乳製品の輸入需要の縮小を受けて、2022年の夏を境に国際乳製品市場価格が下落傾向にあり、これにともないEUの生乳取引価格が続落している。ここでは、欧州委員会が2023年3月30日に公表した「農畜産物の短期的需給見通し」の中から、生乳・乳製品についてその概要を紹介する。

1. 乳製品需給の変化

2021年の中頃から上昇傾向にあった乳製品の国際市場価格は、2022年前半に記録的な高水準に達し、これを境に下降に転じた。図1では、国際的な乳製品価格の指標となる西欧積み出し港のFOB (Free on Board: 本船渡し) 価格を示している。これによると、バター、脱脂粉乳ともに、同様な傾向がみられる。

欧州委員会による2022年10月の短期的需給見通しでは、2022年におけるバターの生産量は前年比1.2%減、脱脂粉乳の生産量は同2.0%減と見込まれていた。しかし、2022年9月以降の生乳出荷量が前年同期を上回って推移したことから、バターや脱脂粉乳に仕向けられる生乳が増えて、バターの生産量は同0.1%減の230万9,000トン、脱脂粉乳の生産量は同0.7%増の143万8,000トンと上方修正された。また、食品インフレが進むEUでは、乳製品価格が高騰し、とくにバターの価格は大きく上昇した。欧州委員会によると、域内の消費者は消費量を減らすのではなく、プライベートブランドなど安い製品を選択したという。バターの域内価格は、2022年秋をピークにその後下落に転じている。

2021年におけるEUの脱脂粉乳の輸出量は、価格上昇によりEU産が国際競争力を弱めたことから、最大の輸出先である中国向けを始め、インドネシア向け、フィリピン向け、イエメン向けが増加した一方で、アルジェリア向け、ナイジェリア向けが減少した。

2022年においては、中国の全粉乳の輸入需要が減少したことから、その中国向け輸出割合が高いニュージーランドがバターや脱脂粉乳向けの生乳を増加させたことが、EUからの脱脂粉乳の輸出抑制につながったと言われている(図2参照)。

2023年のバターと脱脂粉乳の生産量については、バターは230万5,000トン、脱脂粉乳は143万5,000トンで、共に前年比0.2%減と予測される。しかし、中国の需要回復と英国および米国のおよび安定した需要により、2023年のバター輸出は同2.0%増と予測される。さらに、価格の下落傾向が続けば、域内消費量は安定して推移し、同0.1%増となる見込みである。

脱脂粉乳の輸出は、同8.0%増とかなりの程度の増加が見込まれる。他の輸出国のシェアが増えていた東南アジアにおいては、価格の低下に伴い市場競争力が高まり、EU産脱脂粉乳の輸出量が増加すると予測される。

2. 生乳需給の変化

乳製品需給の変化は、EUの生乳取引価格にも影響を及ぼしており、2022年12月に高価格を更新したが、それ以降は続落している(図3参照)。

2022年の生乳出荷量は、前回(2022年10月)の見通しでは前年比0.5%減と見込まれていたが、22年第4四半期の生産量が増加したことから、前年並みの1億4,465万トン(推定値)となった。記録的に高騰した乳価により生産者による経産牛の淘汰が当初の予想よりも進まなかったことで、生産量の増加に繋がったとしている。

しかし、2023年に入り状況に変化が生じつつある。2022年を通じて上昇し続けた乳価は23年1月から下落に転じている。また、飼料費などの生産コストの高止まりに加え、牛肉価格の高騰から経産牛の淘汰が進みつつあ

る。このため、2023年12月時点の経産牛飼養頭数は前年比1.0%減の1,960万頭と予測されている。ただし、2022年は春先の高温とその後の干ばつにより牧草の生育が阻害されたが、2023年の天候が平年並みとすると、1頭当たり乳量の増加(前年比0.8%増)が見込まれ、飼養頭数の減少による影響の一部は相殺され、2023年の生乳出荷量は同0.2%減の1億4,437万トンと予測される。

